

貯 法：室温保存  
使用期限：容器、外箱に表示の使用  
期限内に使用すること  
注 意：「取扱い上の注意」の項参照  
処方箋医薬品  
(注意 - 医師等の処方箋  
により使用すること)

## 乳酸ナトリウム加リンゲル液

# ラクトリンゲル液 "フソー"

## Lactated Ringer's Solution "FUSO"

	200mL(ボリアル)	200mL(バッグ)	※※
承認番号	13600AZZ02527		
薬価収載	1984年6月	2019年12月	
販売開始	1993年10月	2019年12月	
再評価結果	1978年3月		
	500mL(ボリアル)	500mL(バッグ)	
承認番号	13600AZZ02527		
薬価収載	1963年1月	1987年10月	
販売開始	1984年5月	1987年10月	
再評価結果	1978年3月		
	1000mL(バッグ)		
承認番号	13600AZZ02527		
薬価収載	1987年10月		
販売開始	1987年10月		
再評価結果	1978年3月		

### 【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

高乳酸血症の患者 [症状が悪化するおそれがある。]

### 【組成・性状】

#### 1. 組成

	200mL中	500mL中	1000mL中
塩化ナトリウム (NaCl)	1.2g	3g	6g
塩化カリウム (KCl)	0.06g	0.15g	0.3g
塩化カルシウム水和物 (CaCl <sub>2</sub> ·2H <sub>2</sub> O)	0.04g	0.1g	0.2g
乳酸ナトリウム (C <sub>5</sub> H <sub>7</sub> O <sub>2</sub> Na)	0.62g	1.55g	3.1g
添加物	pH調節剤		

#### 【電解質濃度】

Na <sup>+</sup>	K <sup>+</sup>	Ca <sup>++</sup>	Cl <sup>-</sup>	Lact. <sup>-</sup>
130.4	4.0	2.7	109.4	27.7

(mEq/L：理論値)

#### 2. 製剤の性状

剤形	水性注射剤
性状	無色澄明の液で、僅かに塩味がある。
pH	6.0~7.5
浸透圧比 (生理食塩液に対 する比)	0.8~1.0
比重	$d_{20}^{20}$ : 1.004~1.009

### 【効能・効果】

◇循環血液量及び組織間液の減少時における細胞外液の補給・補正

◇代謝性アシドーシスの補正

### 【用法・用量】

通常成人、1回500~1,000mLを点滴静注する。投与速度は通常成人1時間あたり300~500mLとする。

なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

#### 1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1)腎不全のある患者 [水分、電解質の過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。]
- (2)心不全のある患者 [循環血液量を増すことから心臓に負担をかけ、症状が悪化するおそれがある。]
- (3)重篤な肝障害のある患者 [水分、電解質代謝異常が悪化するおそれがある。]

(4)高張性脱水症の患者 [本症では水分補給が必要であり、電解質を含む本剤の投与により症状が悪化するおそれがある。]

(5)閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者 [水分、電解質の過負荷となり、症状が悪化するおそれがある。]

#### 2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症	紅斑、蕁麻疹、そう痒感
大量・急速投与	大量を急速投与すると、脳浮腫、肺水腫、末梢の浮腫

#### 3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

#### 4. 適用上の注意

##### (1)調製時：

- 1)リン酸イオン及び炭酸イオンと沈殿を生じるので、リン酸塩又は炭酸塩を含む製剤と配合しないこと。
- 2)本剤はカルシウム塩を含有するため、クエン酸加血液と混合すると凝血を起こすおそれがあるため注意すること。

##### (2)投与前：

- 1)投与に際しては、感染に対する配慮をすること（患者の皮膚や器具消毒）。
- 2)体温程度に温めて使用すること。
- 3)開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。

(3)投与速度：ゆっくり静脈内に投与すること。

## 【薬効薬理】

輸液療法においては細胞外液量の確保が最も重要で、まず最初にその是正が考慮されるべきだといわれる。すなわち組織代謝の維持又は生体機能のhomeostasis維持のためには、いわゆる機能的細胞外液量を正常に保っておく必要があると考えられている<sup>1)</sup>。

例えば、出血性ショック時や外科的侵襲をうけた場合には失血分以上の細胞外液喪失を起こしていることが実験的、臨床的に示されており<sup>2,3)</sup>、このような場合には循環血液量のみならず、減少している組織間液の回復を同時に考慮する必要がある。

本剤は陰イオンとしてCl<sup>-</sup>の他にLact<sup>-</sup>を含み、生理食塩液やリンゲル液よりさらに細胞外液に近い組成を持つ電解質補液でHartmann, A.F. et al.<sup>4)</sup>により考案されたためHartmann solutionとも呼ばれる。乳酸ナトリウムは生体内で代謝され、等モルの炭酸水素ナトリウムとなってbuffer actionを発揮する<sup>5)</sup>。本剤は血漿中HCO<sub>3</sub><sup>-</sup>とほぼ等濃度のLact<sup>-</sup>を含むため酸塩基平衡を正常に維持することができる。

## 【取扱い上の注意】

### ポリアル・FC（フレキシブルコンテナ）製品：

- 1) 通気針は不要（ポリアルは混注量等により、通気針が必要な場合もある）
- 2) 連結管による連続投与は行わないこと。連続投与を行う場合には、Y型タイプのセットを使用すること
- 3) 内容液の漏出又は混濁などが認められた場合は使用しないこと
- 4) オーバーシール（ゴム栓部の汚染防止のためのシール）が万一はがれているときは使用しないこと
- 5) ゴム栓への針刺は、ゴム栓面に垂直に、ゆっくりと行うこと。斜めに刺すと、ゴム片（コア）が薬液中に混入したり、ポート部を傷つけて液漏れを起こすおそれがある
- 6) 容器の目盛はおよその目安として使用すること

### ※※【包装】

ラクトリンゲル液“フソー”	200mL	20本	ポリアル（スタンダブル）
	200mL	20袋	FC
	500mL	20本	ポリアル（スタンダブル）
	500mL	20袋	FC
	1000mL	10袋	FC

ポリアル（スタンダブル）：輸液用のポリエチレン製ボトル

FC（フレキシブルコンテナ）：輸液用のポリエチレン製ソフトバッグ

## 【主要文献及び文献請求先】

- 1) 高折益彦, 最新医学, **26**, 331 (1971)
- 2) Shires, T. et al., Surg. Forum, **11**, 115 (1960)
- 3) 藤田達士 ほか, 臨牀と研究, **45**, 142 (1968)
- 4) Hartmann, A. F. et al., J. Exp. Med., **50**, 387 (1929)
- 5) 越川昭三, 最新医学, **26**, 274 (1971)

【文献請求先】 扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 学術部門  
〒536-8523 大阪市城東区森之宮二丁目3番30号  
TEL 06-6964-2763 FAX 06-6964-2706  
(9:00~17:30/土日祝日を除く)

製造販売元



扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目3番11号